



○サイエンスフェスタに行きました

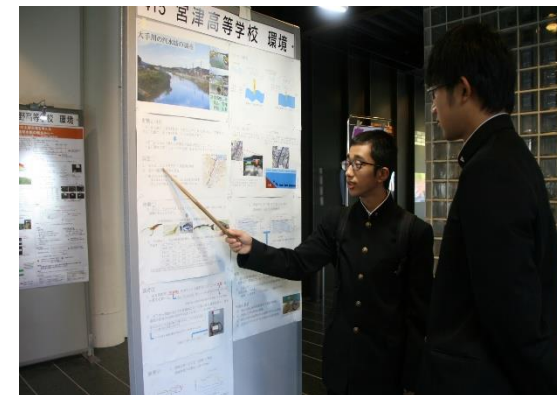
1月3日、京都工芸繊維大学にてサイエンスフェスタが催されました。当イベントでは京都府内から多くの高校生が参加し、各々の研究成果を発表しました。我らが宮津高校からも50人もの生徒が参加しました。

今回は、1年生が主体として発表に臨みました。1年生は、初めてのポスター発表でうまくいかない部分も多くありました。特に、予想もしなかった質問をされたときの対処が難しく苦労しました。

サイエンスフェスタでは「植物は辛みを感じるのか」、「音で火が消せる!？」などといった興味のある発表が数多くあり、中にはおおよそ20もの生徒が輪をとりなして聞き入っている場面も見受けられました。

他の学校の発表を聞いて、研究とは日常のあらゆることに疑問を持つことから始まるということを実感させられました。また、発表の際に自分たちに足りない力を実感させられたので、次回は、足りない力を補って発表に臨みたいと思いました。

(文責 西垣太智)



○炭づくりをしました

6月から7月にかけての約1か月間、炭づくりを行いました。バーベキューの際の燃料として使ったり、脱臭効果があったりすることで、現在でも幅広く使われている炭ですが、それはとても多くの工程を経て作られるものなのです。そもそも炭は、木を燃やすことで余分な成分を飛ばしてできる炭素の塊です。そのため炭づくりは、まず木を切ることから始まります。炭づくりに適した木は、ミズナラやイヌシデなどの幹が固いものです。そこで私たちはイヌシデの木を切ることから始め、その木を炭竈に詰め込み、1週間ほど加熱して水分を飛ばし、2、3日冷やした後、炭は出来上がりました。

炭づくりをするうえで上世屋の方々にお世話になり、この活動を通してつながりができました。普段、私たちが使っているものが出来上がる工程を見る中で、「こんな大変な作業をしていたんだ」という驚きがあり、できあがった時の感動はすごく大きいものでした。地域とつながるとともに多くのことを学べる貴重な体験でした。

皆さんご存知でしょうか。お店で売られている炭はほとんどが東南アジアからの輸入品です。しかし、考えてみてください。外国から輸入する際に燃料を使います。燃料を使って燃料を運んでいる。なんだかすごくもったいないことをしているような気がしませんか。その点、地域で作った炭を地域で使えば、その分燃料を削減できます。また輸入品よりも火持ちが良く、灰が少ない、煙が少ないということづくめです。この品質は国産のものでしか出せません、だからこそ輸入品に頼るばかりではなく、国産の良さを広め、炭づくりを広めていく必要があるのではないのでしょうか。

(文責 西村統一)



○阪大生との合同企画 in うみほし公園

私がフィールド探究部で活動した中で特に印象に残っている活動は、去年の夏(8月25、26日)に行われた阪大生との合同キャンプです。目的は地域の活性化・大学生との交流でした。今回は波見の自然に焦点をあて、それをクイズ形式で出し合い波見のことをよく知ろうという内容でした。私はこの活動から「伝える喜び」を学びました。

「企画に大切なのはコンセプトだ。」と先生はおっしゃいます。今回私たちのグループは「未来へのメッセージ」をテーマにした企画でした。そのため、ルートや言葉にも気を配ることでリアリティーを出し、何を伝えたいのかを明確にして楽しく学べることに気を付けました。安全面や問題の形式で壁にぶつかることも多々ありましたが、部員たちの独創的かつ効果的な意見で解決できました。その様子は、とても刺激的で全てが新鮮で面白かったです。そして、企画が終わった後に体験者にテーマが伝わった時はとても嬉しかったです。企画を通して体験者が私たちと同じ景色を見ていることに感動しました。

このように、これは「伝える喜び」、つまり「企画の楽しさ」を学ばせてくれる貴重な経験となりました。これを糧に次の機会に繋がりたいです。

(文責 寺田若保)



○忘年会をしました

12月28日(金)にフィールド探究部の忘年会が調理実習室で行われました。忘年会とは言いましたが、実際は多々納先生のデスクの下に残っていた大量のジャガイモやサツマイモを処理しようという目的で行われました。みんなで料理を作ったのですが、量が多く、時間もかかったので、14時から始めた忘年会が調理だけで、17:30になっていました。作り始めてからというもの、ジャガイモの下処理にとても時間がかかった料理もあり、料理のできる時間がバラバラになってしまったので、冷めてしまった料理もありました。なんと、調理途中に食べ始める人も出てきて、調理が終わり、みんなで食べる時までに大半がギブアップしていました。

この忘年会を行うことによって、日頃研究をしたり、フィールドワークによって出る肉体的疲労だったり癒すことはできたと思います。来年もフィールド探究部で忘年会を行えたらいいなと思います。
*余ったものは後でスタッフがおいしくいただきました。

(文責 太田健斗)

